株主各位

第65回定時株主総会招集ご通知に際してのインターネット開示情報

自　2020年 4 月 1 日
至　2021年 3 月 31 日

連結株主資本等変動計算書
連結注記表
株主資本等変動計算書
個別注記表

第一稀元素化学工業株式会社

「連結株主資本等変動計算書」、「連結注記表」、「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより株主の皆様に提供しております。

連結株主資本等変動計算書

（2020年４月１日から
2021年３月31日まで）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	787,100	1,121,672	27,002,402	△57,901	28,853,273
当期変動額					
剰余金の配当			△436,675		△436,675
親会社株主に帰属する当期純利益			1,235,393		1,235,393
自己株式の取得				△41	△41
自己株式の処分		14,262		13,199	27,461
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	14,262	798,717	13,158	826,138
当期末残高	787,100	1,135,934	27,801,120	△44,742	29,679,412

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	174,628	114,869	△147,645	141,852	536,549	29,531,675
当期変動額						
剰余金の配当						△436,675
親会社株主に帰属する当期純利益						1,235,393
自己株式の取得						△41
自己株式の処分						27,461
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	223,153	△125,985	288,148	385,316	40,887	426,204
当期変動額合計	223,153	△125,985	288,148	385,316	40,887	1,252,342
当期末残高	397,782	△11,116	140,502	527,168	577,437	30,784,018

連結注記表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

１．連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数　　４社

連結子会社の名称

Vietnam Rare Elements Chemical Joint Stock Company

迪凱凱（上海）材料貿易有限公司

DKK Thai Materials Trading Co.,Ltd.

DKK America Materials,Inc.

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社名は、DKKロジスティクス株式会社であります。非連結子会社は、その総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等の規模等からみて重要性が乏しいため連結の範囲から除外しております。

２．持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の名称等

持分法を適用した関連会社の数　２社

持分法を適用した関連会社の名称

山東広垠廸凱凱新材料有限公司

山東広垠廸凱凱環保科技有限公司

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

(非連結子会社) DKKロジスティクス(株)

(関連会社)　(株)アイ・ディ・ユー

持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続きについて特に記載すべき事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の直近の事業年度に係る計算書類を使用しております。

３．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社であるVietnam Rare Elements Chemical Joint Stock Company、迪凱凱（上海）材料貿易有限公司、DKK Thai Materials Trading Co.,Ltd.及びDKK America Materials,Inc.の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を作成し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

４．会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの ……決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの ……移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

当社及び在外連結子会社は、総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

当社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、1998年４月１日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年４月１日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウエアについては、社内における利用可能期間（３～５年）に基づいております。また、定期借地権については、契約期間に基づいております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、当社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

当社は従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異の処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

ハ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る連結会計年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

② 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

③ 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

金利スワップについて特例処理の条件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ……金利スワップ

ヘッジ対象 ……借入金

ハ ヘッジ方針

金利変動のリスクヘッジを目的として行っており、一定の範囲内で利用することを基本方針としております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理の適用要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

④ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

５．表示方法の変更

（連結損益計算書）

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「受取保険金」（前連結会計年度6,740千円）については、金額的重要性が高まったため、当連結会計年度より区分掲記しております。

（会計上の見積りの開示に関する会計基準の適用）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号　2020年3月31日）を当連結会計年度より適用し、会計上の見積りに関する注記を開示しております。

６．重要な会計上の見積り

(1) 繰延税金資産

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

単位：千円

	当連結会計年度
繰延税金資産	279,059

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、繰延税金資産について将来の課税所得が十分確保でき、回収可能性があると判断した将来減算一時差異について、繰延税金資産を計上しております。課税所得の見積りは、将来の事業計画を基礎としており、販売数量、販売価格及び原材料価格を主要な仮定としております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響は、翌連結会計年度においても一定の影響があるものの、翌連結会計年度末に向けて段階的に解消すると見込んでおります。繰延税金資産の回収可能性は、将来の課税所得の見積りに依存するため、経営環境の変化により見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

(2) 貸倒引当金

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

単位：千円

	当連結会計年度
貸倒引当金	643,000

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、連結子会社であるVietnam Rare Elements Chemical Joint Stock Companyが主原料とするジルコンサンドの長期安定調達を目的に、ベトナム国の鉱物事業会社への投資並びにその組織再編を行っているSolid Success International Limited(以下、SSI) への出資手続きを進めており、SSIの株主との間で締結した株式譲渡契約に従って2019年1月までに支出した2,447,727千円を長期前払金として計上しております。出資の成立にあたっては、関係者による当該契約に規定した義務の履行が条件となっているものの、当連結決算日において、SSIの関係会社等とベトナム国の鉱物事業会社の株主との間で発生した株式譲渡等に関する訴訟により、組織再編及び採掘権の取得等が停滞しており、義務の履行が確認できておりません。なお、当社の支出した長期前払金には当該ベトナム国の鉱物事業会社の担保権が設定されており、同社の株式価値により回収可能額を評価しております。

株式価値は、見積り将来キャッシュフローの割引現在価値として算定しており、重要な仮定は、訴訟係属、鉱物採掘権の取得時期、鉱物の採掘可能埋蔵量、採掘コスト及び割引率であります。鉱物採掘権の取得は、2022年度を見込んでおり、将来の事業計画が過去に実施していた事業よりも規模が大きいこと及び株式価値の算出時点において採掘活動が行われていなかったことから、割引率はベンチャーキャピタルレート水準である25%を採用しています。

当連結会計年度においては、契約手続きの開始からの経過期間や、契約に規定した義務の履行の不確実性、鉱山会社の株式価値の変動リスク、契約解除に備えて設定した担保価値の毀損等のリスクを考慮して、本件投資に起因する将来の損失発生見込額を合理的に算定し、貸倒引当金152,000千円を追加計上しております。前連結会計年度の計上額と合わせた貸倒引当金合計は643,000千円となります。

当社は、現状の貸倒引当金計上額で、当該投資から発生しうる損失を手当てしていると考えておりますが、採掘可能埋蔵量、採掘コスト等の見積りが実際と異なる、あるいは、想定外の環境行政上の対応等の事象が発生した場合には、追加引当が必要となる可能性があります。

連結貸借対照表に関する注記

１．有形固定資産の減価償却累計額　26,091,667千円

２．債務保証

他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、債務保証を行っております。

山東広垠廸凱凱新材料有限公司	55,588千円
山東広垠廸凱凱環保科技有限公司	22,932千円

連結株主資本等変動計算書に関する注記

１．当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数

普通株式　24,400,000株

２．剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	１株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年６月24日 定時株主総会	普通株式	242,439	10.00	2020年３月31日	2020年６月25日
2020年11月12日 取締役会	普通株式	194,236	8.00	2020年９月30日	2020年12月１日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額（千円）	１株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年５月20日 取締役会	普通株式	利益剰余金	242,791	10.00	2021年３月31日	2021年６月23日

金融商品に関する注記

１．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用につきましては元本の毀損のない安全性の高い金融商品に限定し、必要な資金につきましては、銀行等金融機関からの借入により調達しております。

デリバティブ取引につきましては、実需を伴わない取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、販売先与信管理の必要があります。当該リスクに関しては、債権管理規程に従い、営業債権について営業部門及び企画部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、輸出業務等に伴って発生する外貨建の営業債権や輸入業務等に伴って発生する外貨建の仕入債務は、為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建の債権債務のポジションを把握し、外貨建取引管理手順書に従い運用を行い、基本的には受取外貨による外貨支払をベースとして、必要に応じて外貨の円転及び外貨の購入等を行っております。

投資有価証券は株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

借入金の使途は、短期・中期の運転資金及び設備投資資金（長期）であり、流動性リスクに晒されておりますが、各部門からの報告に基づき、財務部門が資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を一定水準に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

２．金融商品の時価等に関する事項

2021年３月31日現在における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含めておりません。（(注2) をご参照下さい）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	9,576,207	9,576,207	－
(2) 受取手形及び売掛金	6,323,651	6,323,651	－
(3) 有価証券	1,200,000	1,200,000	－
(4) 投資有価証券	804,493	804,493	－
資産計	17,904,352	17,904,352	－
(1) 支払手形及び買掛金	2,146,863	2,146,863	－
(2) 短期借入金	1,500,000	1,500,000	－
(3) 未払金	603,060	603,060	－
(4) １年内返済予定の長期借入金及び長期借入金	19,722,750	19,787,076	64,326
負債計	23,972,673	24,037,000	64,326

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資　産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

有価証券は国内譲渡性預金であり、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

株式の時価については、取引所の価格によっております。

負　債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) １年内返済予定の長期借入金及び長期借入金

１年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式 投資有価証券	47,250

これについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

１株当たり情報に関する注記

(1) １株当たり純資産額　1,244円13銭

(2) １株当たり当期純利益　50円91銭

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

株主資本等変動計算書

（2020年4月1日から
2021年3月31日まで）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	787,100	1,194,589	70,508	1,265,098	35,000	71,567	24,000,000	3,329,408	27,435,976
当期変動額									
資産圧縮積立金の積立						22,744		△22,744	－
別途積立金の積立							2,000,000	△2,000,000	－
剰余金の配当								△436,675	△436,675
当期純利益								1,592,855	1,592,855
自己株式の取得									
自己株式の処分			14,262	14,262					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	－	－	14,262	14,262	－	22,744	2,000,000	△866,564	1,156,180
当期末残高	787,100	1,194,589	84,771	1,279,360	35,000	94,312	26,000,000	2,462,844	28,592,156

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△57,901	29,430,273	174,628	174,628	29,604,902
当期変動額					
資産圧縮積立金の積立		－			－
別途積立金の積立		－			－
剰余金の配当		△436,675			△436,675
当期純利益		1,592,855			1,592,855
自己株式の取得	△41	△41			△41
自己株式の処分	13,199	27,461			27,461
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			223,153	223,153	223,153
当期変動額合計	13,158	1,183,600	223,153	223,153	1,406,754
当期末残高	△44,742	30,613,873	397,782	397,782	31,011,656

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

１．資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 関係会社株式及び関係会社出資金……移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

２．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、1998年４月１日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年４月１日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウエアについては、社内における利用可能期間（５年）に基づいております。

３．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

４．その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(3) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップについて特例処理の条件を満たしているため、特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ……金利スワップ

ヘッジ対象 ……借入金

③ ヘッジ方針

金利変動のリスクヘッジを目的として行っており、一定の範囲内で利用することを基本方針としております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理の適用要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

５．表示方法の変更

（会計上の見積りの開示に関する会計基準の適用）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号　2020年3月31日）を当事業年度より適用し、会計上の見積りに関する注記を開示しております。

６．重要な会計上の見積り

(1) 繰延税金資産

① 当事業年度の計算書類に計上した金額

単位：千円

	当事業年度
繰延税金資産	492,705

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結計算書類「連結注記表」６．重要な会計上の見積り事項に記載した内容と同一であります。

(2) 貸倒引当金

連結計算書類「連結注記表」６．重要な会計上の見積り事項に記載した内容と同一であります。

貸借対照表に関する注記

１．有形固定資産の減価償却累計額		25,433,741千円
２．債務保証		
他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、債務保証を行っております。		
山東広垠廸凱凱新材料有限公司		55,588千円
山東広垠廸凱凱環保科技有限公司		22,932千円
３．関係会社に対する金銭債権・債務	金銭債権	12,403,886千円
	金銭債務	83,902千円

損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高の総額	売上高	6,013,186千円
	仕入高	1,840,092千円
	販売費及び一般管理費	228,642千円
営業取引以外の取引による取引高の総額		55,619千円

株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における自己株式の種類及び数	普通株式	120,815株

税効果会計に関する注記

１．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	119,650 千円
一括償却資産	8,085 千円
社会保険料	18,664 千円
たな卸資産評価損	94,423 千円
未払事業税	21,726 千円
持分変動利益	45,390 千円
減損損失	126 千円
関係会社出資金評価損	91,168 千円
投資有価証券評価損	14,475 千円
関係会社株式評価損	133,852 千円
研究開発費	162 千円
貸倒引当金	221,506 千円
その他	40,970 千円
繰延税金資産合計	810,202 千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	175,391 千円
前払年金費用	100,521 千円
資産圧縮積立金	41,584 千円
繰延税金負債合計	317,496 千円
繰延税金資産の純額	492,705 千円

関連当事者との取引に関する注記

（単位：千円）

種類	会社等の名称	議決権の所有割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	Vietnam Rare Elements Chemical Joint Stock Company	所有直接 99.99%	役員の兼任 資金の援助	資金の貸付（注）2	3,000,000	長期貸付金	7,900,000
				利息の受取（注）2	40,949		
子会社	DKK America Materials,Inc.	所有直接 100.00%	当社製品の販売	製品の販売（注）3	3,361,231	売掛金	2,029,400
子会社	迪凱凱（上海）材料貿易有限公司	所有直接 66.67%	役員の兼任 当社製品の販売等	製品の販売等（注）3	2,360,869	売掛金	1,081,905
関連会社	山東広垠廸凱凱新材料有限公司	所有直接 33.00%	役員の兼任 資金の援助	債務保証（注）1	55,588	—	—
				資金の貸付（注）2	20,000	短期貸付金（注）4	30,000
						長期貸付金（注）4	447,300
関連会社	山東広垠廸凱凱環保科技有限公司	所有直接 33.00%	役員の兼任	債務保証（注）1	22,932	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針

（注）１．山東広垠廸凱凱新材料有限公司及び山東広垠廸凱凱環保科技有限公司の銀行借入につき、債務保証を行ったものであります。なお保証料は受け取っておりません。

２．資金の貸付については、市場金利を勘案し、決定しております。

３．製品の販売については、市場価格を参考に決定しております。

４．山東広垠廸凱凱新材料有限公司への貸付金に対し、21,918千円の貸倒引当金を計上しております。

１株当たり情報に関する注記

(1) １株当たり純資産額　1,277円29銭

(2) １株当たり当期純利益　65円64銭

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。